

[山梨県医師会]

<医師バンクの取組状況>

2025年12月から、県医師会でドクターバンク事業を開始する。

財源は、地域医療介護総合確保基金を活用し、ネット上のシステム構築費340万円の助成を受けている。

通常のドクターバンクのほか臨時・短期のスポットのマッチングを行っていく。当バンクはネット上で求人・求職・マッチングが完結できる仕組みとなっているが、細部の補完と希望者のために、仲介役のコーディネーターの設置を検討中である。また、11月1日から開始となる日医ドクターバンクとも業務提携を行う予定である。

<医業継承について>

2025年2月から、県医師会で医業継承事業を開始した。

地銀の山梨中央銀行と連携協定を締結。①医業継承ニーズのある医師および医療機関の紹介や情報交換②ニーズが合致した場合のマッチング支援③医業継承セミナーの開催と情報の周知活動、を行っていく。

継承希望医療機関・譲受希望者のマッチングは現在は電話・FAX・メール等による個別相談であるが、上記のドクターバンク開始以降は同サイト内でオンライン上でも行える仕組みとなっている。

<女性医師支援の取組状況>

具体的な取り組みは進んでいない。

公的支援が望ましいが、行政との温度差や社会通念との乖離がある。実現には女性医師支援が必要である理由（女性医師の増加に伴い、出産・育児による離職や、働き方改革による実働人数の減少への対策が今後重要になること、科や地域による医師偏在対策の一環としても必要であることなど）の丁寧な説明が必要と感じている。

現状では、ドクターバンクを通して①代替医師確保により育休取得を取りやすくすること、②休職・離職後の再就労やスポット勤務の機会を確保すること、で間接的に支えていきたい。

<課題について>

勤務医への情報伝達と協働を進める。

- これまで大学医師会・病院を主な対象としてきたが、大学同窓会へのアプローチが有効かもしれない。医師は必ず大学医学部を卒業しているので、医師会に加入していない医師にも情報を届けるチャンスになるのではないか。求職・継承等の、大学や病院経由では届けにくい情報も伝えやすくなることもメリットのひとつである。
- 「ワークライフバランス」が唱えられて久しいが、近年の労働市場全体で「ライフ（生活）」の充実が「ワーク（仕事）」の充実に繋がるという価値観が醸成されつつあり、医師に於いても同様の傾向がみられる。本会議は、医師会活動のなかでも、医師の「ライフ」に直接コミットできる数少ない部門であり、今後医師の生活の充実を通し

て仕事の質の向上に大きな役割を果たせると捉えている。

- ・活動の一例として医師会の主催する婚活サイト（宮崎県）がある。当県でも行政と銀行が提携する婚活サイトがあり、こちらとの連携も検討したい。

行政の理解を深め、支援を仰ぐ。

上述のように丁寧な説明を重ね、医師会活動の必要性を理解していただくことが効果的な連携にとって重要である。

また、実効性のある活動には人件費・広告費等の原資が不可欠となる。広く県民の利益に資するバンク・継承・女性医師支援等についてはその意義について行政側の理解を深め、県医師会として支援金・補助金を積極的に申請し、費用的支援を仰ぎたい。